

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市黒松児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 13,000 人 (前年度比 60.3 %) 令和元年度 21,563人 平成30年度 25,181人 平成29年度 25,833人 《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 26,292千円 (27,500 千円) ・ その他市が負担した費用 0 千円 (0 千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0 千円 (0 千円) ・ その他収入 0 千円 (0 千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館協力者会議、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	19/19

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>コロナ禍の下、乳幼児親子や児童が安心して過ごせる児童館運営を図るとともに、在宅の親子が楽しめる工作や遊びの提案、児童館の近況報告等、地域における遊びの拠点の役割として、情報の発信に努めました。</p> <p>児童健全育成事業の「親子でクッキング」は、お弁当づくりを通じて、小学生親子が宮城の食材やその調理法を学びながら、親子で調理を行うことの楽しさや一体感を共有することができる行事となりました。</p> <p>乳幼児子育て支援事業の足育法の講座は、0歳児親子向けに「初めての靴選びと足育法」、1歳児親子向けに「よちよち歩きの靴選びと足育法」、2歳児親子向けに「思いっきり遊ぶための靴の選び方と足育法」をテーマとして、我が子の足の特徴や発達段階に合った靴の選び方とバランスの良い足づくりについて学び、集う機会となり、次年度の事業展開に向けて参加者の期待が高まっています。</p> <p>地域交流推進事業では、放課後子ども教室わいわいパーク黒松との共催による「土曜はあそぼう！IN黒小体育館ミニテニス体験会」において、ミニテニスの体験を通じ、仙台市ミニテニス協会のインストラクターも交えて、放課後子ども教室利用児童・黒松児童館利用児童の親子間の交流が深まりました。</p> <p>児童クラブでは、フラフープ選手権やなわとび大会等、子ども達が自分に合った目標を設定してチャレンジできる行事、こけしの絵付けやバンダナ染色等の創作活動等をバランスよく日々のプログラムの中に組み入れ、充実した時間の中で、子ども達に豊かな情操が育まれることを目指した取組みを行いました。</p> <p>また、「KYT活動」、夏休みや冬休みの「過ごし方計画策定」、「新しいおもちゃの使い方ルール作り」等、子ども達が参画して決定に至るプロセスに関わることにより、児童クラブの一員としての帰属意識が醸成され、積極性・自発性が育まれるよう、子ども達に寄り添った対応を心がけています。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>子育て家庭支援事業では地域の人材を講師として迎えたオリジナリティのある企画で行事を開催している。年齢ごとの発達段階に応じた「足育法や靴選びについて」の講座や、赤ちゃんの足形などでアート作品を作る「クリニカルアート」などを開催し好評を博した。他にも親子で楽しめる企画「わらべうた」やリフレッシュ企画「バレトン」、子育て支援センター協力のもとイヤイヤ期についての講話など、子育て中の保護者のニーズに応える内容を提供し、地域の子育て家庭の支援に努めている。</p> <p>児童健全育成事業としては、子ども達の安全への意識を高める「KYT活動」を取り入れながら、運動遊びを多く取り入れて心身の健康の増進に取り組んでいる。フラフープ大会や縄跳び大会を開催してチャレンジできる環境を整え意欲を引き出し、鬼ごっこやサッカーなどの集団遊びを通して子どもの社会性や主体性を育んだ。また、地域の方の協力のもと「こけしの絵付け」や庭の草花を利用した「染めもの」など、豊かな遊びの機会を提供した。様々な遊びへの取り組みに対して、子どもの自然な興味や意欲がわくのを見守り、いつでも取り組める環境を整えることで子どもの主体的な活動や、子ども同士で教え合うなど積極的な関りに繋がった。また、地域の小学生に向けても絵付け用こけしの配布をしたり、土曜日の自由来館での行事が再開されると放課後子ども教室との連携行事や親子でのお弁当作りなど、豊かな遊びの機会を提供するよう努めた。こうした日々の支援や豊かな遊びの提供を通して子どもの豊かな人間性や自ら学び考える力を育てている。その他にも、コロナ禍において高学年による「あそボランティア」の活動については計画までとなってしまったが、子どもの自主性を育む取り組みとして今後の事業展開が期待される。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課